

TAMAサイト

多摩支部授業研究会(会員授業)

11月1日(水)に稲田小学校で多摩支部授業研究会が行われました。2つの授業を公開くださり、どちらの授業でも子供たちが夢中になって運動に取り組む姿が見られました。授業者の岩崎先生、佐藤先生をはじめ、様々な点で尽力いただいた稲田小学校の職員の皆さん、お忙しい中参観された皆さん、ありがとうございました。

授業後の研究協議では、活発な意見交換がなされ、研究を深めることになりました。そして、講師の井上美代子先生からは、授業をする上での貴重な助言をいただくことができました。

以下、多くのご意見、ご感想をいただいた中で、主だったものをいくつか紹介します。

研究協議 ○感想や意見 ☆質問 ◎質問に対する回答・授業者より

《3年生 器械運動「跳び箱運動」》 岩崎 聖 先生

【子供の様子について】

○子供同士の学び合い、関わり合い、声かけがよかった。

○悩みながら取り組んでいる子がいた。周りは関わろうとしていた。教師の関わり合いで跳ぶことができた。その後、友達とも関わる事ができていた。教師との関わり合いも大切だと感じた。

○跳べない子を中心に見ていた。手立てをどうしていくかを考えていきたい。関わり合いの言葉の中に技のポイントや出来栄が出てくると良いのではないかな。

○子供達の実感とポイントの言葉を繋げていくことが大切。場を適切に選ばせる声かけも必要。ポイントを分けて意識させるとよいのではないかな。

○技のポイントや視点を絞ることをしている。例「きょうは腰をあげるよ。」など関わりを簡素化するとよいのではないかな。言葉を共有したり問い返しを増やしたりして関わり合いを増やしていけるとよい。

○関わり合いはよくできていた。子供達の優しさや技の見方の甘さが出てきたときが教師の出所だと感じる。

先生が伝える。→子供に入る。→子供が話せるようになる。スモールステップで。跳べない子を何とかしてあげたい。

うまく跳べない子に先生が積極的に関わっていくことが大切だと思う。

☆わかっているけど怖くてできない。そういう子をどうしたらいいかな。

◎できていない、その状況だけを練習させていく。肩が出せていないのなら、その感覚を付けさせてあげる。腰が上がった状態、助走なしで繰り返していくことで恐怖心を消していけるとよいと思う。

【GIGAの活用について】

○場やGIGA端末を使用しているときの子供の立ち位置が参考になった。ギガたんの使わせ方が難しい。上手な子や子供達が見つけたポイントなどを可視化するとよいのではないかな。

◎前単元のマットでも使ってきた。動画を見ながら教え合うことは子供たちから自然に出てきた。



《6年生 ボール運動「ティーボール」》 佐藤 篤 先生

【子供の様子について】

○勝っても負けても、運動を楽しんでやっていた。声かけもよかった。どうしても勝敗にこだわってしまう子にはどうしたらいいかな。

◎勝っても負けても、相手がいるからゲームができると伝えている。勝敗にこだわることも大切だが友達の良いところなどに目を向けさせようとしている。

☆プールスティックを使った打撃練習では、トスの場合は難しい。プールスティックを使った意図を聞きたい。

◎バットを振る回数を増やして、振ることに慣れさせたかった。

【場について】

○70度のコートでは、幅が狭いと感じた。ただ、90度になると後ろまで取れない。校庭の広さに合っていたと思う。

70度にしたことで良いプレイがたくさん見れた。

○教師の中継やベースカバーについての声かけが多かった。攻撃側もいい声かけがあった。コートの広さは気にならなかった。

○守備にとっては有利になっている。2塁までが長いので2塁でアウトをとりやすい。ただ、守備が上手くなってきたことで、良い当たりがでても2塁で刺されてしまう。攻撃側に有利な工夫も必要になってきたと感じる。

○守備が有利だと感じた。ただ、ファーストでアウトが取れそうな場合でも2塁に投げてしまっていた。状況を判断する力を付けさせてあげたい。



指導講評

講師：井上 美代子 先生(川崎市立南菅小学校 総括教諭)

- ・3年生も6年生も子供達がのびのびと活動していた。2クラスとも思いがこもった熱い授業だった。
 - ・体育の学習で何をめざすか→生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現していくこと。
 - ・自己成長型（跳び箱運動）とチームスポーツ型（ボール運動）の授業提案だった。
- 授業づくりのポイントは、子供の学びや経験の実態を把握し、どう手立てをしていくか。

【3年生】

- ・アンケートから→新しい単元だからこそその不安なこと、心配なことを感じている子供が多い。
→だからこそ手立てが必要になってくる。
- ・場について
みんなができる易しい場からスタートしていた。それがポイントに繋がる場になっているので、単元後半まで残してもよかったのではないか。
易しい場を1つの技として価値付け、スモールステップでできたを増やしてあげてもよかった。
- ・子供の声と教師の思いを叶える細やかな多様な手立てがあった。
- ・3年生にとって先生の指導はとても大切。子供が伝えきれない感覚を、ポイントを変えないように、わかり易い言葉にして伝えていた。
- ・4月から「考えること」を大切にしながら積み重ねをしてきていることが素晴らしい。

【6年生】

- ・アンケートから→技能面が楽しいところでもあり、難しいところと感じている。
- ・経験が少ないということは、伸びしろがたくさんあるということ。
- ・ルールについて
みんなが動けるルール。作戦を立てる必要が出てくる。中学年からのルールの繋がり。
- ・作戦を達成させるために、子供達がより具体的なめあてがもっていた。
- ・児童の実態を踏まえた丁寧な学習のスタートができていた。
- ・子供の声と教師の思いを叶える細やかな多様な手立てがあった。
- ・ベースボール型の楽しさからぶれないことができていた。